

それである。肌觸りのよささうな、内氣な性質の聰明さを顔に示してゐるが、餘り丈夫な體格ではない。邦人の標準から判斷すると面長な婦人ではあるまいかとさへ思はれる。

ラファエルのフロレンス滯留期間を一五〇四年の十月例の紹介狀をもつて來た時から一五〇八年の夏羅馬に向つて去つた時までの四年足らずの間とする。その間にはフロレンス市の藝術界に於て種々の變化が起つた。マイケルエンゼロは法王ジュリアス二世(Julius)の爲めに召されて羅馬に去つた。レオナルドはフ市の宮殿の廣間の壁に一群の色彩の圖案を試みたが厭氣を起しミラン市に居るフランク王に仕へる爲めに去つた。居残つたフラ・バルトロムメオ(Fra Bartolommeo)と云ふ畫僧のみがラファエルの指導者となり友達となつた。自然この畫僧の影響をうけることになつた。

新著紹介

○A Miocene Flora From Grand Coulee, Washington. By E. W. Berry.

U. S. Geol. Survey, Professional Paper, 170—C, Pp. 31—42, 1931, Price 10 cents.

北米ウオシントン州コロムビア川流域グラントクリーの北端附近で一九二七年以來、Bonser, Robert 以下二名の探集に係る二五科三四屬五個の植物化石の研究報文で圖版三頁を附す。僅に五屬は裸子植物で他の全部は被子植物である大部分は第三紀中新世以後の北米の地層からは發見されざるもの *Glyptostrobus*, *Palurus* の如く舊大陸のみに現存するものもある。以上の化石を産する地層は中新世多分上部中新世に屬するものである。(上治)

○Glaciation in Alaska. By Capps, S. R.,

U. S. Geol. Survey, Professional Paper, 170—A, Pp. 1—8, 1931, Price 15 cents.

アラスカに於ける洪積氷河の分布を研究した論文である。該地では現今の氷河は南方の海岸地域の高地で、而も降水量多き地方に限つて存在し、全アラスカの三%の面積を占めて居る。地質時代に於ては古生代の中期以後屢々氷期の存したことを見るがフライストシン氷河、殊にワイズコンシン期の氷河がアラスカに於ては南方海岸地域と北部アラスカの高地帯の二地域に氷田を作り、中部のニューコン川低地及北極海斜

面の低地には存在した證據がない。然るにカナダ、合衆國では當時の大氷田は遙に南方まで存在した事實があるから、大氷河の生成には降水量が深い關係を有することを考へねばならぬとの結論に達して居る。附録現今並にウイコンシン期氷河分布及移動方向圖二葉、現今並に過去の氷河に關して概略の記述をなしてある。

(上治)

○都市動態の研究

石川榮耀著 四六版 一二五頁

刀江書院發賣 昭和七年六月 定價七拾錢

郷土科學パンフレット第三輯として公にされた本書は都市の物理的性質をその動態から捉へ様と企圖して、名古屋、豊橋、岡崎、一宮、瀬戸の五市の資料によつて都市の展延を論じたものである。都市展延の様式は求心動、平衡動、遠心動に三別すべく、そのうち遠心動は之を周溢性と輻射性とに分けられるとして上記の五市を之にあてはめてゐる。即ち求心動は一般市民が日常生活費に對し妥當な料金で使用する事の出来る交通機關を有つ前に都市の探る形式で、この段階にある都市の大きさは日常生活に於ける徒歩半徑を七哩とすれば面積は約五十萬坪で人口は約三萬である。人口各四萬の瀬戸及一宮の兩市は現にこの求心動形式の都市である。都市が半徑一哩に達すると交通機關を欲しがるに至る。この段階は人口七萬の時であるが未だ交通機關は企業價值がなく、どちらかと云へば之をさして必要とせぬ時代で人口移動が不活發で

平衡動の様式を與へる。後來交通機關の合經濟期に達するのであるが其の期は人口十四五萬にして初めて達する。即ち人口七萬の岡崎市、十萬の豊橋市は平衡動段階の都市である。遠心動の初まるのは交通機關が合經濟になつた時で先づ周溢性展延を示し、周縁の場末町が擴大され、人口密度が徒歩半徑の最大限一哩を越えた所に増大される。之を名古屋市に就て見るに密度増加は都心より廿三四町の外に約一哩の幅の地帯で最大で、其の内部には減率部が出来てゐる。周溢性膨脹に次ぐ發達は輻射性で人口約三十萬の時に初まるものと認められる。輻射にも種々の形式がある。即ち近郊輻射は名古屋市に於ては大正十三年人口七十三萬の時であり、都心から三哩乃至六哩に於ける外郊輻射は昭和三年人口八十七萬の時からである。猶隣接町村輻射は初め一反吸收した人口を送り返すことを以て初まり外郊副射に先行する。この都市展延の外展延の偏倚、速度、展延に伴ふ内現象、周邊に及ぼす影響が總て數量を掲げて論じられてある。結語にかうある、都市は理論的展延を爲しつゝある有機的構造體で、然かもこの有機體は人口量の大小により態容を異にし、地形その他の地理的條件により特異な習性を示すものである。在來地理學者の口癖に説いた都市有機體説はそれが生物現象たる膨脹性を有つ事、展延が平面圖的に生物とアナロジイを有する點を指す様な素朴な程度のものであつた。本書に於て著者は本格的な都市有機體説を成立させる資料の存在を示し、且つその取扱ひ方

に對して一暗示を與へたものと云はれてゐる。この愛知縣都市計畫技師石川氏の論述は將に本邦都市地理學への大きな貢獻だと認められる節が甚だ多い。(N)

○滿業地理歴史第一輯

奉天滿洲教育専門學校
陵南地歴研究會發行

奉天の滿洲教育専門學校内にある地歴研究學會がこの月刊雜誌を出した、第一輯には入江氏の滿洲地理區、瀬古氏の奈良朝時代の考察、今江氏の吉敦鐵道沿線の經濟地理、内西氏の農民に就ての考察、篠原氏の宋の外交、池上氏の北陵と其傳説、金氏の敬惜字紙の七篇をのせてゐる、予はかうした雜誌が適當な時期に生れたことを敬賀せざるを得ないと共に其の健全に生長せんことを祈るものである。(藤田)

雜報

○京都市の簾

其沿革は古く、其竹材は極めて良好なるために、京都市に於ける簾の生産は注目すべき古工業の一つである、簾は普通にスダレといふが、その外に翠簾即ミスといふ古典的特産がある、我國では萬葉集にスダレを詠じたものがあり、枕草紙に香爐峰の雪といふ話もあるが、所謂ミスといふものは禁中の御用に供され、後に神社佛閣に使用されることとなり、平安朝の貴族の家庭に於てもこれを用ふるに至つたが一般の民間ではスダレを用ひたと見える。小菅のス

ダレ、イヨスダレ、珠簾、玉垂のミス、玉だれのコス、水精の鉤簾、カヤスダレ、アシスダレ、ヨシズ、コモスダレ、シノスダレ、ミクリのスダレ、繩スダレ、クダスダレ、切スダレ等その語は非常に廣い。高貴のミスを調進するは「御翠簾師」であり、一般のものは「葭屋」といつて區別した、今日夏向の家庭に用ひる座敷用の簾として、徳川時代には無かつた。今ものは極めて近世の産であつて、徳川時代には無かつた。今簾の種類をあげてみると、第一にミスである、ミスは女竹に限り、其編方は蛇腹編にかぎり縦縁、中縁、横縁といふヘリの附け方に規約があつて、その横縁の上部のものをモコウといふ。さうして竹を黃色に染める。ところが民間で用ひる簾はさうした約束がない、男竹殊に苦竹を用ひる。ミスは女竹を割つたまゝに用ひるが、簾はこれをヒゴニして磨をかける昔のスダレには縁がなかつたが、今は縁をつけるけれども、ミスの如く中縁がない。座敷用は五尺八寸、軒掛け二尺七寸或は六尺で、間中といふは二間に四枚吊り、一半といふは一間半に四枚吊り、小間中といふは一間に四枚吊といふ風に幅に三通りの區別がある、内吊と外吊で製法がかはり、竹の皮でつくるものと竹の身でつくるものがあり、衝立、屏風、障子、簀戸など用ひ場所によつて形をかへるから、その種類は千差萬別である。

材料として京都の苦竹は第一位である、中にも嵯峨竹がよい、最近嵯峨竹は濫伐されたので供給に不足するやうになり